

C-I-36 NPPVにおける安全対策

ハートライフ病院 看護部 喜瀬一也 呼吸器内科 普天間光彦

【はじめに】

NPPV（非侵襲的陽圧換気法）は、気管内挿管をせずにマスクで行なう人工呼吸器管理として方法が簡便であり患者の負担も少ないことから急速に普及してきている。当院でもこれまで救急外来からICU、一般病棟と全病棟でNPPV療法を行なってきた。しかしNPPV療法を行なう病棟が増えた結果アクシデントが発生しており、その原因と対策を検討したので報告する。

【対象】

平成13年より平成17年2月までの間に当院でNPPVを施行した76例。

【結果】

アクシデント（全14件）の原因として一番多かったのはマスクフィッティングにおいてリークを意識するあまり呼気ポートを塞ぐことであった（10件）。

次にスワイベルの未使用（2件）、スワイベルの変わりに別のコネクターを使用する（2件）な

ど接続の間違いがみられた。対策としては定期的な勉強会に加えてアクシデントが発生した時点で臨時の講習を行い、アクシデント事例の写真を1つのパンフレットにして器械ごとに取り付け啓蒙した。勉強会後はアクシデントの減少が認められたが、新しい機器やマスクが導入されると件数が増える傾向があった。マスクの多様性に伴うアクシデントが多く認められ、その対策として常備マスクを1種類にして対応しアクシデントの減少を認めた。

【考察】

アクシデントが発生する理由としてNPPV療法の普及に比べてスタッフの理解力不足が考えられた。系統的な勉強会に加えて起こりやすいアクシデントを取り上げて指導することが安全対策に有効であると考える。また、患者コンプライアンスをあげるためにマスクの種類を増やすことは重要であるが安全対策を考えるとマスクは1種類がよいと考える。